

実戦における戦略

私は、個々のセットアップやパターン認識に加えて、それらを日々変化する相場にアジャストさせるために、数種類の戦略を用いており、このコンテンツでは、その具体的な内容について解説していきます。

ただし、この内容が絶対的なものではなく、これら個々の戦略に優位性を感じる場合はそれを一つの根拠として採用するという考え方であることを理解してください。

○上がったら下がるし、下がったら上がる

相場の原理原則として、値動きというものは、様々なスケーリング一定で上下に波を打ちながらチャートの右側に進んでいきます。

マーケットの魔術師の1人であるトム・デマークは「相場の8割がレンジ」と言っており、これについてはどの時間軸を採用しているのかによって大いに

青牛式トレードマスター講座

解釈の余地がありますが、大局としては「値動きは平均に回帰する」、「上下一定の幅に収束する」という概念で捉えることが最適であると考えています。

つまり、私の場合は、H1、M30 をメインの時間足としていますが、相場へのアプローチとしては、

「昨日上がったのなら、今日は下がるかもしれない」

「昨日下がったのなら、今日は上がるかもしれない」

というスタンスをとっています。

なので、マクロなチャート全体の形状と同時に、ミクロな視点として日足1本ごとの配置や関係が「昨日が陰線なら今日は陽線」その逆も然りと見ています。

○パターンタイム

以前ツイートしたことがありますが、私はよくこのサイト「為替（FX）ボラティリティ計算ツール：<https://jp.investing.com/tools/forex-volatility->

青牛式トレードマスター講座

calculator」で「ボラがある日、大きなプライスアクションがある日、時間帯」などを見えています。

相場には、一時的に形成される秩序や最も大きな値動きが生まれる時間、その値動きが止まり価格が折り返す時間などが一定の規則性をもって明らかに認識できる時があります。

昨日、先週はいつ大きく動いたのか、止まったのかということを一つの根拠にして待機していることが多く、チャートからの情報の他にこのサイトからの情報も参考にしています。

この戦略の中では、最も大きな根拠としているかもしれません。

また、このサイトの情報の読み取り方としては、このサイクルが「一定期間継続したからそろそろ変化するかもしれない」という逆読みの活用もしています。

青牛式トレードマスター講座

○ストップ刈り

基本的にストップ刈りは「起こるもの」として捉えています。

具体的には、ミクロのセットアップが整い、なおかつハンマーなどのタイミングシグナルが確認できた場合、それらのストップを刈るタイミングで入ると
いうことをよくやります。

また、日本時間の安値、欧州時間の安値は、それぞれその後の時間帯で一旦刈りにくるという傾向もあるとみて準備しています。

つまり、

日本時間の安値 → 欧州時間で刈られる

欧州時間の安値 → NY 時間で刈られる

ということですね。

※相場の流れとして、ストップ刈りが起こらない、起こりづらいというサイクルがあるのですが、ストップ刈りを狙っている側としては、そういった時期は非常にやりづらいものです。

青牛式トレードマスター講座

○前日の安値割れ

上位足が明確な UTRD でない場合を除いて、**基本的に日足の前日安値のポジションを刈りにくる**という視点でみています。

○ローソク足確定前の値動き

私の場合、H1 か M30 でよくやるのですが、これら ローソク足確定のタイミングとパターンタイムを組み合わせる ことによって、優位なポジションを形成することができます。

一概に固定した表現は難しいのですが、例えば H1 スケールでの押し目が確定となるローソク足の形成過程で、その確定前の値動きに乗ってポジションを持っていくという感じです。

どの時間足でも普遍的に通用すると思うので、あなたの主戦場とする時間のローソク足が確定する前の値動きを狙ったエントリーをトライしてみてください。

青牛式トレードマスター講座

すべてに共通することなのですが、相場と対峙する上で絶対的な法則、俗にいう聖杯は存在しません。

聖杯が存在するとすれば、それはあなた自身の在り方です。

相場から何らかの情報を有効に読み取るためのツールなどは、使う側によってその効果が決まるということを十分理解してください。

ありがとうございました。

あをうし